

校 樹 ケ ヤ キ

本校の東にある正門を入ると、正面に1本の大きなケヤキの木があります。暑さの厳しいここ数日は、蝉の鳴き声が一段と大きく聞こえます。このケヤキの木にも数匹の蝉が止まり、例年よりは遅めの合唱を必死に頑張っています。

このケヤキの木は、いつごろからこの場所に生えているのか気になりました。調べてみると、本校が創立10周年を迎えた際に刊行された記念誌の中に、その若い姿が見受けられます。見開きの正門付近のカラー写真の一部に、「仰峯不屈」の碑石とともに30年ほど前の当時のケヤキがしっかりと確認できます。それでも樹高は7mほどでしょうか。新しい学校の清々しい新鮮な息吹や、生き生きとした雰囲気を感じられます。

ケヤキは日本を代表する落葉広葉樹で、成長が早く高いものでは25mを超える巨木もあります。正門の木のように枝はホウキ状に広がり樹形が美しいため、都市部の公園や街路樹、住宅地などに広く植栽されています。北海道を除く日本全国に分布していて、東海地方でも身近に見られる木です。

私がケヤキという木を特別に意識したのは、若い頃の大学時代にまで遡ります。当時は大学で彫刻を専攻し、木彫の材料としての木材学の授業では、いろいろな木の特徴や用途を学びました。今ではかなり忘れてしまいましたが、懐かしい思い出の中に、様々な仏像の話が出てきました。特に日本の古代仏像では、確認されているだけで34種類の木が材料として使用されていること。一番多く使われているのはヒノキで、ベスト5の中にはケヤキも確か入っていたこと。法隆寺の多くの仏像の中で、普賢延命菩薩像のみが唯一ケヤキで造られていること。このように雑学的な知識は、意外に覚えているものです。

木彫実習の最初の授業では、まず材料の木を自分で用意しなさいと指導教授から言われました。何もわからず教えられるままに、大学から遠く離れた木材市場まで、同級生と一緒に材料となる木を探しに行きました。だだっ広い場所に、多くの丸太や木の塊、銘木、建築用木材が雑然と置いてある中で、木彫に使いそうな木を選ぶのは大変でした。条件は安価で形が大きいもの。学生なので特に安さは重要でしたが、なかなかこの条件に合うものはありません。結局、特価品の中から二股に分かれた木を選びましたが、それでも貧乏学生にとっては結構な大金が必要でした。その時の木が、私の最初の木彫作品となったケヤキでした。余談ですが、その作品は2年後の大学祭で、見事にキャンプファイヤーの材料となりました。

ケヤキの思い出を長々と書きましたが、ケヤキは昔から仏像だけでなく、幅広い用途に利用される貴重な木材でした。木目が美しく、材質が堅くて長年腐朽しない性質を持つため、家具、調度品、扉などに広く用いられ、珍しいものでは臼、杵、和太鼓の胴などが特徴的です。建築材としても重宝され、お寺や神社の柱には不可欠な材料です。京都東山の清水寺の舞台は、78本のケヤキの柱で支えられていることでも有名です。

本校のケヤキは校樹です。東高生の皆さんも、ケヤキのように大きく逞しく、そして美しく気高く、天に向かって力一杯伸びやかに成長してください。そのため的高校生活を有意義に充実させ、自分の夢の実現に向けて、確かな足どりで全力を尽くすことを祈念しています。

8月12日

大垣東高等学校長 浅野 裕 司

